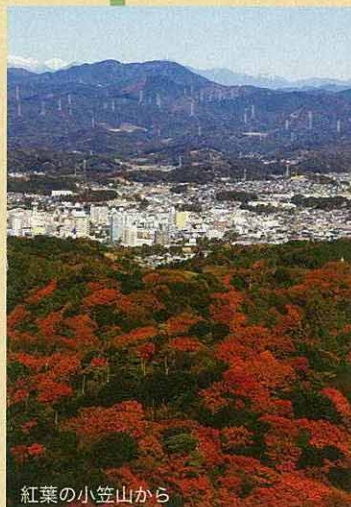
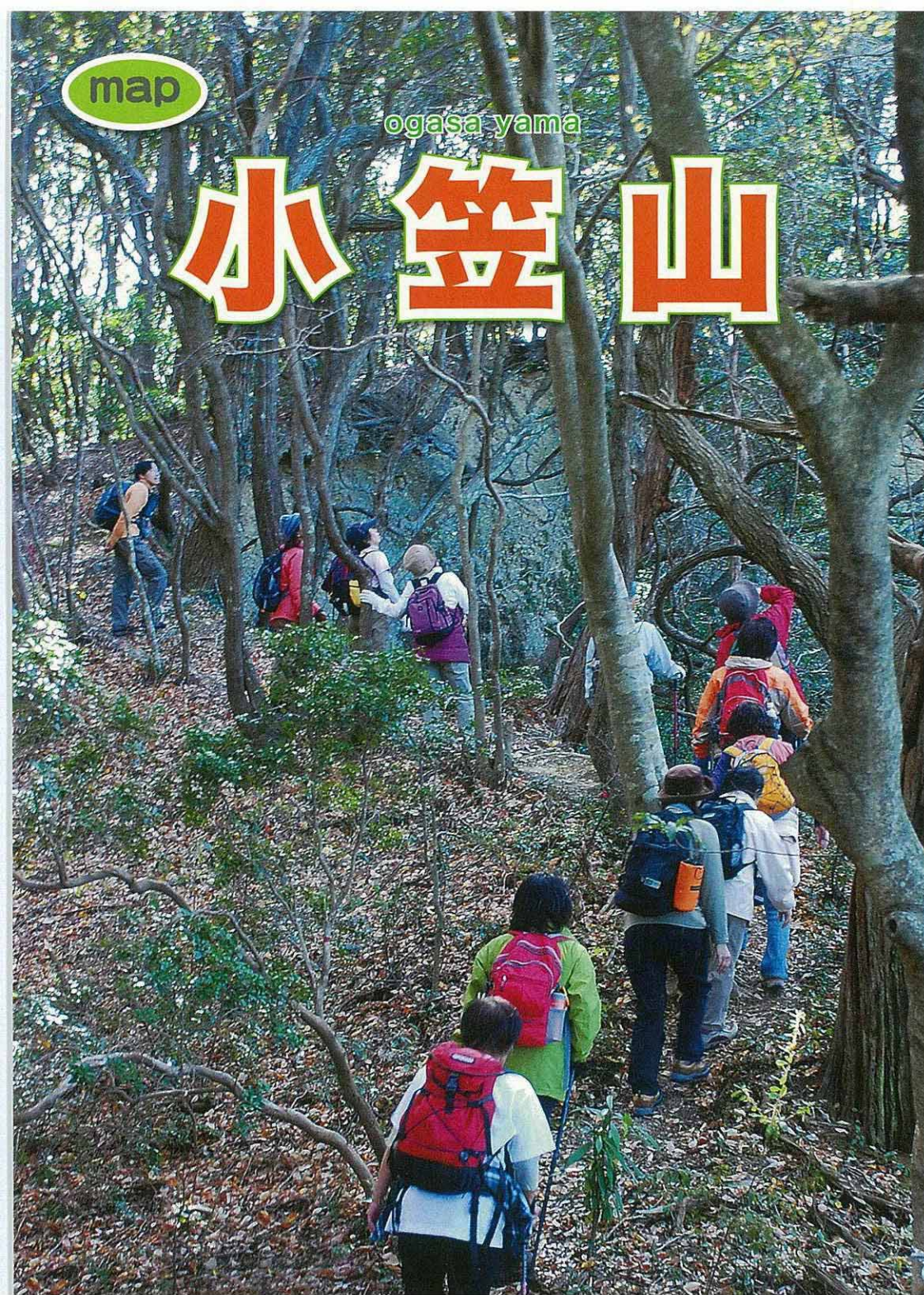


map

ogasa yama

小笠山



紅葉の小笠山から

山歩きでの注意事項

- 小笠山は地形が複雑で幾筋もの尾根や谷が入り組んでいます。切り立った崖も多く危険な箇所がありますので足元には十分注意してください。
- 低山といえども服装、飲み物、食べ物、薬などの準備を整えてから出かけましょう。
- 滑りやすい道も多いので、靴はスニーカーよりも軽登山靴以上のものが安全です。
- 服装については、ケガや虫さされ予防のために夏でも長袖、長ズボンを着用するのが安全です。
- 持ち込んだ食べ物、ゴミは必ずすべて持ち帰りましょう。また、植物や動物を傷つけないこと、自然を大切にしましょう。
- 休息などで、立ち止まる場合には、落下する枝がないか、落石の危険がないかなど、安全な場所であることを十分に確認しましょう。
- 歩行時間は目安ですので個人により異なります。また、山での行動は自己責任が原則です。

準備したいもの

地図・食料・飲み物・虫除け薬・雨具・タオル・
懐中電灯・手袋 など
(植物図鑑・鳥類図鑑・双眼鏡・カメラ)



作成：平成 23 年 3 月

編集：掛川遊歩会

参考資料：掛川市自然観察ガイドブック
小笠山みりょく発見ブック
掛川市白図 1/10,000 他

発行者：掛川観光協会



冬晴れの南アルプス (展望写真拡大)

○小笠山の成り立ち (地形と地質)

小笠山は、JR 掛川駅と愛野駅の南側に広がる標高 264mの自然豊かな山で、静岡の百山に選ばれています。丘のような低山なのになぜ?と思うでしょう。それは、変化に富んだ複雑な地形と多様な植物群を有する広い山域を持っているからです。約 100 万年～数万年前、まだ日本列島が大陸と地続きであったころ、大井川は今の掛川付近で太平洋に注いでいました。小笠山は、大井川の上流から運ばれた土砂が堆積してできた小笠礫層 (石が地層の中に埋もれている層) の下にある約 400 万年～100 万年前の海底堆積物の掛川層群 (主に泥層) で構成されています。長い年月のあいだに気候や地殻変動、地震などにより幾度かの隆起や浸食を繰り返して現在の小笠山がつくられました。北東側に分布する掛川層群は浸食されやすいため切り立った崖になり、南西側に広がる小笠層群 (礫層) とで、ゆるやかに傾くケスタ地形となっています。

山頂といっても独立したピークはありません。南西に手のひらを上げたような地形は、尾根と谷が入り組み、崖が多く複雑です。この地形と地質、位置、気象条件によって小笠山の豊かな自然が作りだされ、多くの動植物がこの自然環境に育まれ命の営みを行なっています。



↑なだらかな尾根道

←小笠山山頂 (264.8m 四等三角点)

←崖にかかる道もたくさんあります

○小笠山は植物の宝庫

小笠山は、昔から植物の豊かな山域として知られていて約 1,300 種類もの植物が確認されています。小笠山の自然環境がさまざまな植物の生育条件を満たしているため、狭い地域にこれほどまとまった植物群が分布しているところは全国的にもそれほど例がありません。尾根にはウバメガシが多く、山頂付近にはアカガシがあります。特にシダ類、コケ類の貴重種の存在は有名です。



ヒカゲツツジ (春)

ホトトギス (秋)

ウマノスズクサ (夏)

○シダ類、コケ類、キノコ類 など

多くの深い谷がシダの生育に必要な温度と湿度を保っているため、亜熱帯性、暖帯性、温帯性のシダが分布しています。(176 種確認) 特に亜熱帯性のスジヒトツバなどは小笠山が日本の北限といわれています。夏、北に面した湿った崖では、イワタバコの紅紫色の花を見ることができます。イワタバコは岩壁の北側に生える特性があるので、方角がわかります。

また、小笠山はかつて、赤松が多く『松茸山』と呼ばれていたこともありましたが、伐採やマツクイムシなどの影響で、いまではその面影も遠のいてしまいました。松茸のほか約 200 種のキノコ類が確認されています。また、山麓の湿地ではコケ類や湿原植物、水性植物、食虫植物などを見ることができます。

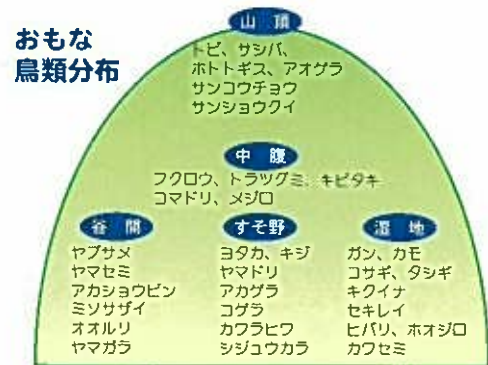


シダ類 (ウラジロの群生)

○野鳥の楽園 隠れたバードウォッチングのメッカ

小笠山では、日本の野鳥のほぼ3分の1にあたる約 130 種類の野鳥を観察することができます。また数も多く、一年中どこでも野鳥のさえずりが聞こえてきます。ここは野鳥の生活に適した環境が備わっているからです。それは、植物や小動物が多いのでエサが豊富で、海にも近い丘陵地は渡り鳥の休憩場所に欠かせないのです。小笠山の森は人の手が入っていない静かなところが残っていて比較的温暖なことから越冬のためたくさんの野鳥が集まってきます。

春から夏にはウグイス、オオルリ、キビタキなどが、秋から冬にかけてはシジウカラ、エナガなどが群れ、メジロは一年中見られます。初夏には、静岡県産の鳥であるサンコウチョウが渡ってきて「月、日、星 (つき、ひ、ほし) ホイホイホイ」と特徴ある鳴き声を聞かせます。



自然と歴史の道 小笠池周辺コース



小笠池浮棧橋

小笠山の山頂や小笠神社に近く、ポピュラーなコースです。小笠池には浮棧橋があり、山が映える静かな湖面をながめると心が和みます。植栽されたモミジや桜もあって四季折々の景色が楽しめます。池を一周できますが、滑りやすく危険なところがあるので慎重に歩いてください。また、3カ所あるトンネルは照明がなく暗く溝もありますので懐中電灯を持参しましょう。小笠神社への参道わきには小笠礫層が露出しているところがあり、この山域の地質の一端を知ることができます。そして、小笠神社や家康の砦跡、多聞神社などが歴史をものがたっています。あずまやのある後線からは、掛川市街と南アルプスの山々が、展望広場からは、小笠平野と雄大な遠州灘、小笠神社の境内からは、東に富士山を望むことができます。

山のすがすがしさを堪能 マスラノ池周辺コース



小笠山案内看板



与佐衛門池



ドンドン隧道



サンコウチョウ(雄)



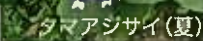
サンコウチョウ(雌)



ショウジョウバカマ(春)



ウツギ(初夏)



タマアジサイ(夏)

ここは、地元のみなさんによる環境整備が行き届いたコースです。四季の花々も多彩、森林のなかを心地良い水音を聴きながら歩けば、心も身体もリフレッシュ。バードウォッチングや写真撮影に訪れる人が多く、サンコウチョウも渡ってきます。ドンドン隧道は明治時代、下流の与佐衛門池を土砂災害から守るために住民が手掘りで掘削した隧道です。全長65m 高さ2mの隧道にはノミで掘削した跡が残り、内部にはコウモリが生息しています。足をのびして展望台まで行くとここから掛川市街と南アルプスの山々を遠望することができます。自然観察と森林浴が堪能できるコースです。